大分県知事
広瀬勝貞 殿

提　　言

大分に「科学館」の設置を

平成１９年（２００７）１月

大分大学長　　羽野　　忠
日本文理大学長　　松原　典宏
大分工業高等専門学校長　　大城　桂作

目　　次

１．　提言の趣旨

２．　基本コンセプト

(1)　未来志向であること

(2)　知的コアの形成

３．　今の大分に求められるもの～「人材育成」・「知的創造」

(1)　青少年育成の支援

(2)　社会人教育の支援

(3)　知的創造活動の支援

４．　計画に取り組む姿勢

５．　おわりに

１．提言の趣旨

我が国は「科学技術創造立国」を国是としており、地域社会の持続的発展のためには、知的創造活動と人材育成が必須です。

私たち大学や高専もその中心的機関として人材育成に取り組んでいますが、特に最近の科学技術の進歩は目覚しく、青少年の科学技術教育もこれに相応する高度なものが要求されます。

しかし、本県には、その様な科学技術教育をサポートするための施設がまだ整備されておりません。出来るだけ早い時期に、知的創造力を育む「科学館」および「知的創造活動の拠点」を整備することにより、子どもから大人まで科学や技術を楽しみ、知的創造力を育む風土が醸成され、次世代を担う優れた人材が育つとともに、地域社会に大きな活力が生まれることが期待されます。

２．基本コンセプト

(1) 未来志向であること

この施設は、地域の将来像を念頭に置き、それに向けて「架け橋」となるような方向を指し示すべきであります。

そのためには、はっきりした理念のもとに造られる先見的なコンセプトが必要です。

(2) 知的コアの形成

知識基盤社会に突入した２１世紀において､大分は､｢知的創造｣を発展戦略の要としなければなりません。またその成果を、広く情報発信することが望まれます。ここに提言する「科学館」および「知的創造活動の拠点」が県都大分市の「知的創造」のシンボルとなり、産・官・学・民が集い、学び、交流して「知的創造」を促進する知的サポートとしての機能が期待されます。

３．今の大分に求められるもの～「人材育成」･「知的創造」

現在の大分に求められるものは何でしょうか。私たちは、それは「人材育成」と、「知的創造」であると考えます。

(1) 青少年育成の支援

グローバル化が進む 21 世紀に活躍する青少年の育成を考えるとき、知的探究心を育てる自然科学教育、それに基づいて価値を創造する科学技術教育が特に重要となります。

知的人材育成には、３つのステップからなる「知の循環」が必要です。すなわち、①「出会い」から始まり、②「創造活動」を行い、③周囲と「交流（コミュニケーション)」する。そして、再び①「出会い」へという一連の流れです。

大分県及び大分市には、美術館、歴史資料館等の、いわゆる文系の教育施設はかなり整備されています。しかるに、文化の両輪である理系分野（科学技術）への「出会い」を提供する施設は、極めて不足しています。また、大分県は豊かな自然に恵まれ、自然に触れる機会が多くあります。しかしこれからの科学技術には、五感で捉えることが困難な分野が多く、工夫された実験や非日常の体験を中心とした「科学館」のような施設が不可欠です。

最近問題になっていますように、我が国では、科学的な考え方や自然に親しむ心を育むはずの初等中等教育で理科離れが進み、若者だけでなく、大人にもその影響が及んでいます。このことは深刻であり、大分もその例外ではありません。

したがってこのような状況を改めるために、全県からのアクセスに便利な大分市に「科学館」を設置して、子ども達に科学への驚きや感動を与える「出会い」の場を提供し、同時に、優れた解説者や教員の養成に取り組むべきと考えます。

(2) 社会人教育の支援

現代の知識基盤社会においては科学技術の発達が目覚しく、社会人となってからも常に学び続ける意欲と習慣が欠かせません。大分市中心部に設置される「科学館」は、このような市民のニーズにも対応できるものであってほしいと思います。

すなわち、「科学館」の持つ本来の機能に加え、各大学等のサテライト・オフィスを設け、市民が持つ科学技術への関心や疑問に対応できる「生涯学習」の支援機能とともに、企業人が新たな科学技術を習得するための支援機能を兼ね備えることが望ましいでしょう。このような科学館を訪れた意欲的な社会人が、そこでさらに子ども達と交流し、良き社会人像を示すことができれば、子ども達にとって、すばらしい人材育成の場となるでしょう。

(3) 知的創造活動の支援

これからの大分を支える「知的創造」は、現在、産学官連携や異業種交流、クラスター形成、インキュベーターなどの様々なかたちで展開されており、大学や高専も力を入れています。しかし、まだまだ先進県に遅れをとっているところが多々あります。

これらの活動の基本はまず、人と人との「出会い」であり、意欲ある人たちがチームを組んで、知的創造を高めることです。そのような「出会い」を容易にするため、「人材データベース」の更なる整備も期待されます。また、大分発「知的創造」の成果を広く世界に発信しなければなりません。さらには、科学技術のみならず、医療、福祉、芸術、商業、農林水産業なども含めた人的な交流やネットワークの形成までも視野に入れ、支援活動の拠点を設置することが望まれます。

４．計画に取り組む姿勢

この計画が単なる建物の建築、いわゆるハコもの作りに終わらないようにするためには、「知」を集結させ、文化を創造・発信できる場として、上記の基本コンセプトを重視した価値創造の仕組みづくりが必要です。また施設の設計にあたっては、福祉やユニバーサルデザインという観点を抜きにしては語ることはできません。施設にはあらゆる利用者への配慮が行き届いてこそ、市民協働と地域コミュニティの育成が可能な施設となるでしょう。

ここで提言した「科学館」は、図書館や美術館などの公共施設と同様、運営面においても税金を投入される施設である以上、計画立案の知的レベルを向上させる努力を傾け、時間をかけて十分に意見集約することが不可欠です。

何よりも大切なことは、この施設が、大分市はもちろん大分県全体の「知的コア」となる、枢要な施設であるということです。したがって、大分市単独の事業ではなく、大分県と大分市が共同で取り組むべきと考えます。また、１２０万人の大分県民の期待に応えうるものとするよう、多くの叡智と意欲を集めるべきでしょう。

５．おわりに

私たちは、「知的コア」を具現する施設として、また多様な人たちに感動を与え、未来へ向けての知的人材の育成を支援する施設として、県都大分市に「科学館」および「知的創造活動の拠点」の設置を提言します。